

事例 No. 安来 2

経営体状況

- ◆ 地区名 / 安来
- ◆ 経営体区分 / 個人 (家族経営)
- ◆ 経営主年齢 / 60 歳代
- ◆ 営農類型 / 水稲 + 露地野菜
- ◆ 作物 / ジャンボニンニク、ツケウリ、黒大豆、水稲
- ◆ 区分 / 認定農業者

・作目別作付け面積 (a)

ジャンボニンニク … 240	水稲 (もち) …… 50
ツケウリ …… 10	黒大豆 …… 10

・所有施設・機械一覧 施設・機械名・規格 数量

トラクタ 53,30,18ps …… 3 台	
軽トラック …… 1 台	畝立て機 …… 1 台
ハンマーナイフモア 1 台	管理機 …… 1 台
フレールモア …… 1 台	

経営の概要

経営主は、平成 13 年より自宅近くの水田でジャンボニンニクの栽培を 7a から開始。

当初は、所有地での作付であったため、規模拡大に限界があった。

ジャンボニンニクには需要が見込めると判断し更なる規模拡大のため干拓農地を借り受ける。

現在では、干拓農地内で、2.4ha の経営規模に拡大している。

経営の成果

基幹作物であるジャンボニンニクは年々出荷量を拡大している。

営農にあたっては、栽培作物の独自研究を重ね、より良い作物の生産を目指している。

経営の特徴は、基幹作物であるジャンボニンニクのほとんどを種苗会社へ出荷し、一部を道の駅やインターネットによる直売及びニンニク味噌として加工も行っている。



経営地を上空から撮影



ジャンボニンニク栽培状況



直売用商品

また、ジャンボニンニク栽培で労働力が必要な植付と収穫作業は一斉に行うことで効率を上げている。

近年は、通年の所得確保を目的とし、ツケウリの生産から加工までを一貫して行っている。

今後の取り組み

ジャンボニンニクは、まだまだ需要が見込まれるものと判断され、今後も順次規模拡大を行う。

出荷先も確保、加工体制も整い、順調な経営を行っており、今後は法人化も含めた経営計画の見直しを行うこととしている。

また、規模拡大に伴い専従の人員を確保すべく関係機関と連携していく。